

2024年（令和六年） 11月29日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

■ 概況

当週（11月21日～27日）の国際石油市場は、前半は、ウクライナとロシアのミサイル攻撃の応酬、OPECプラスの増産再延期観測といった要素で値上がり、後半は、イスラエルとヒズボラの停戦合意で、値下がりした。

NYのWTI原油先物市場は、21日、70ドル台回復の70.10ドルで始まり、週末22日は続伸し71.24ドル、25日は反落の68.94ドル、26日には68.77ドル、27日は3日続落の68.72ドルで終わった。

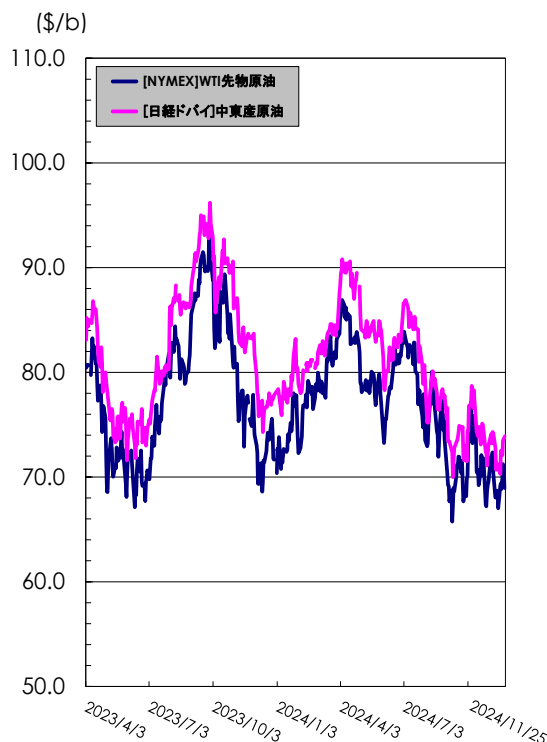
また、中東産バイ原油/東京市場（1月渡し）も、前週（11月14日～20日）は70.30～72.50ドルの範囲で推移したが、当週は、11月21日72.10ドル、22日73.50ドル、25日73.90ドル、26日72.60ドル、27日72.30ドル。

対ドル為替レート（TTM）は前週（11月14日～20日）154.35～156.84円の範囲で推移したが、当週は、11月21日155.13円、22日154.52円、25日154.25円、26日154.24円、27日152.88円となった。

財務省が11月28日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、11月上旬の原油輸入平均CIF価格74,820円で前旬比182円高、ドル建て78.73ドルで前旬比0.91ドル安、為替レートは1ドル/151.10円。

そのような中で、11月25日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.1円高、軽油は同横ばい、灯油は同1円安（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は174.9円となった。11月28日～12月4日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は16.3円（補助金がない場合の次週予想価格191.1円で、168円から185円の補助率60%支給部分10.2円、185円を超える補助率100%支給部分は6.1円）と、前週比1.8円の増額となった。

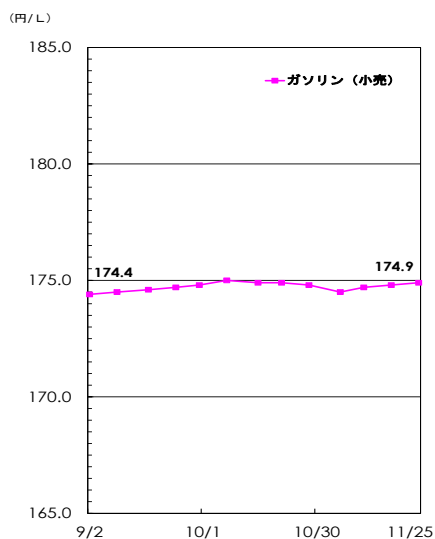
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/17～11/23	2,746 ▲40	▲-
	トッパー稼働率 (%)	"	79.3 ▲1.1	▲-
	原油在庫量 (千kl)	11/23	9,842 ▼-349	▼-
価格	中東産原油(日経バイ) (\$/bbl)	11/25	73.90 ▲3.60	▼-9.4
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	11/25	68.94 ▼-0.22	▼-5.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	11月上旬	78.73 ▼-0.91	▼-15.17
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	74,820 ▲182	▼-13,971
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	151.10 ▼-2.10	▼-0.77
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/25	155.25 ▲0.10	▼-4.73



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/17 ~ 11/23	804 ▲ 25	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	576 ▼ -124	▼ -
	輸出	"	109 ▲ 54	▲ -
	在庫	11/23	1,878 ▲ 119	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 11/19 ~ 11/25	80.0 ➡ 0.0	▲ 1.0
		(TOCOM/中部) 11/25	84.0 ▲ 2.0	▲ 5.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 11/25	174.9 ▲ 0.1	▲ 0.9

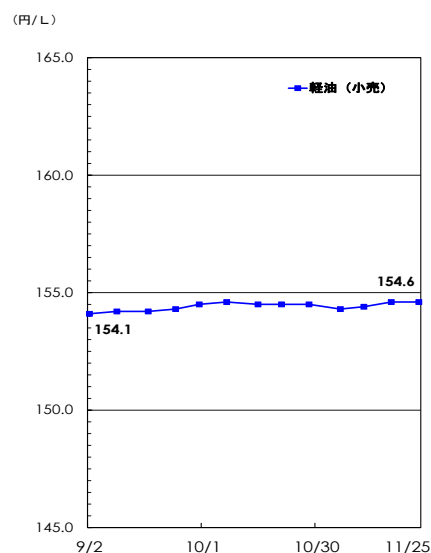
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

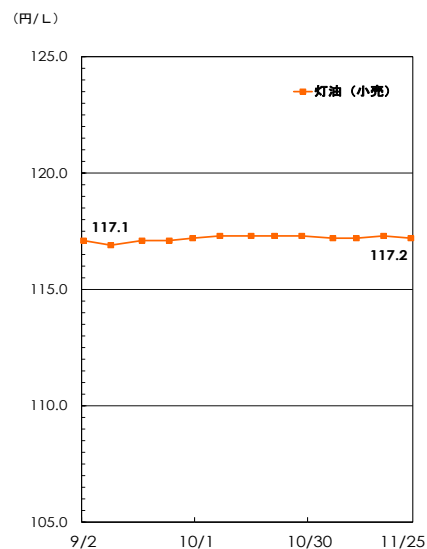
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/17 ~ 11/23	736 ▲ 16	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	588 ▼ -13	▼ -
	輸出	"	102 ▲ 49	▼ -
	在庫	11/23	1,576 ▲ 46	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 11/19 ~ 11/25	82.5 ▲ 0.3	▲ 3.0
		(TOCOM/中部) 11/25	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 11/25	154.6 ➡ 0.0	▲ 0.9

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/17 ~ 11/23	295 ▲ 100	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	240 ▲ 46	▼ -
	輸出	"	91 ▲ 70	▲ -
	在庫	11/23	2,691 ▼ -36	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 11/19 ~ 11/25	80.0 ➡ 0.0	▲ 2.0
		(TOCOM/中部) 11/25	85.0 ▲ 2.0	▲ 5.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 11/25	117.2 ▼ -0.1	▲ 1.4



■ 関連情報

1 海外/原油 (WTI原油先物市場)

前週(11/14~11/20)のNYMEX・WTI先物市場は67.02~69.39ドルの範囲で推移した。

当週、11月21日は、ブーチン大統領は、ウクライナに新型の超音速中距離弾道ミサイルで攻撃したと演説、両国の緊張が激化し、また、OPECプラスは、12月1日開催の閣僚会合で自主減産縮小の再延期を検討するとの報道があり、反発、70ドル台を回復した。この日から中心限月となった1月物終値は前日比1.35ドル高の70.10ドル。

週末22日は、ロシアとウクライナの緊張が激化する中、前日の中国政府による貿易支援策への期待が広がり、続伸した。ただ、前日からの上伸で、利益確定売りも出て、上値はやや削られた。1月物終値は同1.14ドル高の71.24ドル。

週明け25日は、イスラエルとレバノンの親イラン武装勢力ヒズボラが停戦に合意したとの報道で、中東地域の緊張が緩和、大きく反落した。持ち高調整の売りも出た模様。1月物終値は同2.30ドル安の68.94ドル。

26日は、イスラエル閣議はヒズボラとの停戦案を承認した模様だとの報道があり、また、トランプ次期大統領は、カナダ・メキシコへの追加関税を石油にもかけると発言、両国からの輸入減少で米国内石油需給は緩むとの観測も広がり、続落した。ただ、OPECプラスの増産再延期の観測も強く、下値は固かった。1月物終値は同0.17ドル安の68.77ドル。

27日は、朝方、OPECプラスの増産再延期観測で、買いが優勢であったが、イスラエルとヒズボラが米国の仲介で60日間の停戦に合意、中東地域の緊張緩和により、売られ、3日続落した。なお、米国石油在庫週報で、原油は取り崩されたものの、ガソリンは積み増されたことから、大きな影響はなかった。1月物終値は同0.05ドル安の68.72ドル。

2 海外/米国石油市場

11月27日発表の22日時点の米国石油在庫は、原油在庫は前週比40万バレル減と市場予想に反した取り崩しだったものの、ガソリン在庫は330万バレル増と市場予想を上回る積み増しとなった。

EIAによると11月25日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比0.2セント安の1ガロン3.044ドル(124.7円/ℓ)と6週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比4.8セント高の1ガロン3.539ドル(145.0円/ℓ)と4週ぶりの値上がり。

ペーカーヒューズ社によると、11月22日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比1基増の479基となった。

3 国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年11月17日~11月23日に休止したトッパー能力は19.6万バレル/日で、前週に対して8.7万バレル/日減少した(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は274.6万klと、前週に比べ4.0万kl増加。前年に対しては6.7万klの増加。トッパー稼働率は79.3%と前週に対して1.1ポイントの増加、前年に対しては4.8ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェット、A重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/3.1%増、ジェット/10.6%減、灯油/51.5%増、軽油/2.2%増、A重油/7.8%減、C重油/8.8%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.7万kl減)。軽油の輸出は10.2万kl(前週比4.9万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてジェット、灯油が増加し、その他の油種で減少した。

前年比では全油種で減少した。ガソリンの出荷は57.6万kl(対前週17.7%減)と2週連続で減少した。ジェット5.1万kl(対前週88.1%増)、灯油24.0万kl(対前週23.6%増)、軽油58.8万kl(対前週2.2%減)、A重油19.4万kl(対前週1.6%

減)、C重油11.6万kl(対前週4.4%減)。

(単位:千kl)

	今週 (11/17~11/23)	前週 (11/10~11/16)	前週比
ガソリン	576	700	▼ -124 (-18%)
ジェット燃料	51	27	▲ 24 (89%)
灯油	240	194	▲ 46 (24%)
軽油	588	601	▼ -13 (-2%)
A重油	194	197	▼ -3 (-2%)
C重油	116	121	▼ -5 (-4%)
合計	1,765	1,840	▼ -75 (-4%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

4 国内/製品在庫量

11月23日時点の在庫は、ガソリン、軽油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては灯油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは187.8万kl、前週差11.9万kl増。前年に対しては22.8万kl多い。

灯油は269.1万kl、前週差3.6万kl減。前年に対しては26.0万kl少ない。

軽油は157.6万kl、前週差4.6万kl増。前年に対しては24.8万kl多い。

A重油は77.1万kl、前週差1.2万kl減。前年に対しては1.9万kl多い。

C重油は166.0万kl、前週差7.1万kl減。前年に対しては15.7万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (11/23)	前週 (11/16)	前週比
ガソリン	1,878	1,759	▲ 119 (7%)
ジェット燃料	848	916	▼ -68 (-7%)
灯油	2,691	2,727	▼ -36 (-1%)
軽油	1,576	1,530	▲ 46 (3%)
A重油	771	783	▼ -12 (-2%)
C重油	1,660	1,731	▼ -71 (-4%)
合計	9,424	9,446	▼ -22 (-0.2%)

5 国内/元売会社製品卸価格

11月19日～25日のドル建て中東原油価格は前週比値上がりし、為替レートの円高がわずかにこれを相殺したが、元売会社の卸建値は値上がりしたものと見られる。補助金は増額されたものの、中東産油国の11月分調整金の増額もあり、11/28～12/4の実質卸価格は値上がりとなる模様。

6 国内/製品小売価格

11月25日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円高の174.9円、軽油は同横ばいの154.6円、灯油は18%ベースで同1円安の117.2円(1%ベースでは0.1円安の117.2円)。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油は3週ぶりに値上がり止まり、灯油は3週ぶりの値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がり率が26都道府県、横ばいは6県、値下がり率は15府県だった。全国最安値は岩手県の168.0円、その次は愛知県の168.2円であった。他方、最高値は長野県の184.2円。最も値上がりしたのは石川県・徳島県・北海道(同0.8円高)、最も値下がりしたのは愛知県(同1.1円安)だった。

次回調査時(12/2)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが見込まれる。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (11/25)	前週 (11/18)	前週比	直近高値
レギュラー	174.9	174.8	▲ 0.1	23/9/4 186.5
灯油	117.2	117.3	▼ -0.1	08/8/11 132.1
軽油	154.6	154.6	▶ 0.0	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2024第34号) の公表は、12/6 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。